

研究課題の名称

コロナウイルス肺炎(CoVP)とインフルエンザウイルス肺炎(Invp)、非ウイルス性市中肺炎(nVCAP)の臨床像に関する多施設共同研究

研究の目的及び意義

2019年12月中国武漢から発生した新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は世界的な拡大を見せ、本邦でも3月6日現在で1000人を超える確定患者が生じた。しかしながら、新興感染症である本症の臨床的な特徴の報告の多くは武漢からの記述疫学によっており(2-5)、まだわかっていないことが多い。

まだ臨床的な特徴がわかっていないコロナウイルス肺炎(CoVP)の特徴を、未だ中国ほどの検査前確率がない本邦でこれまでのウイルス性肺炎の代表格であるインフルエンザウイルス肺炎(Invp)やウイルス性肺炎以外の非ウイルス性市中肺炎(CAP)と比較することであきらかにし、また重症化する症例の予測因子を把握できれば、早期予測と重症化のピックアップに有用である。

現在、新型コロナウイルスは本邦の社会的脅威となっており、早急に研究を行いあきらかとなったことを発表し、本邦の診療の一助となることを祈念する。

研究対象者の選定方針

研究実施計画書 P.5 III-5-3. インフォームド・コンセント参照

研究予定期間承認日(2020年4月26日)から5年間